

信州大学知の森基金を活用したグローバル人材育成のための短期学生海外派遣プログラム
実施状況および成果

プログラム名	マレーシアプトラ大学のELS語学センターでの英語集中プログラム参加を通したグローバルマインドをもつ人材の育成プログラム	
学部・研究科名	全学教育機構	
プログラム実施期間	2017年8月9日～9月11日	
研修先(国・都市・施設名)	マレーシアプトラ大学 ELS語学センター	
参加者数 : 22名		知の森からの支援者 : 21名
プログラム概要	本プログラムでは、本学の協定校であるマレーシアプトラ大学に併設されているELS語学センターが主催する約3週間の英語プログラムに本学の学生を参加させ、英語の四技能を集中的に訓練させた。さらには、語学研修中に、授業外で現地の文化に直接触れるイベントに参加させ、異文化間交流を通してグローバルマインドを養成した。これにより、学生が長期海外留学へ向けたモチベーションを向上させる上で鍵となる、長期留学のベースとなる英語力およびグローバルマインドを養成した。現地では前半の1週間はホテルに滞在したが、残りの約3週間は、キャンパスの敷地内の学生寮に滞在し共同生活を行った。これにより、集団生活で必要となる協調性を養成することもできた。	

実施状況・成果

平成29年8月9日(水)の朝、成田空港に22名の学生と引率教員2名が集合した。学生たちは期待に胸を膨らませ、クアラルンプール行き(マレーシア航空)の航空機に搭乗し、予定通り当日中に現地入りした。イミグレーションが混雑していたため入国に時間がかかってしまったが、入国後は語学学校のスタッフがUPMのバスで空港まで迎えに来てくれ、ホテルのチェックインまでサポートしてくれたため、学生たちはスムーズに研修をスタートすることができた。到着直後の週末は、マレーシアの文化に触れるため、世界遺産であるマラッカや政府の機能が存在するプトラジャヤを訪問し、見聞を広めた。学生たちにとっては特にイスラム文化に触れたことが新鮮な体験になったようだ。翌週からは語学センターでプレイスメントテストを受験した後、レベル別のクラスに分かれて、各自、英語の四技能の訓練に入っていった。授業は英語で実施され、授業中に英語で発言することを求められることが多いせいか、学生たちも徐々に英語を使って意志を伝えることの重要性を学んでいった。また、クラスメイトに日本人以外の人が多かったことが、異文化間コミュニケーションのツールとして英語を用いることの重要性を身をもって理解することに貢献したようだ。

今回の研修では、英語の学習自体は3週間ほどと短期間であったため、英語力の大幅な向上の実現は難しかったが、前述のように、異文化間コミュニケーションのツールとして英語を学習することの重要性について、学生各自が気づくことができたというのが最大の成果であると思われる。これにより、学生が長期海外留学へ向けたモチベーションを向上させる上で鍵となる、長期留学のベースとなる基礎的な英語力およびグローバルマインドの養成がある程度実現したことになる。実際、今回の研修がきっかけになり、さらに長期的な留学を考えたいという学生の声が多く聞かれていることから、このことが裏付けられる。本当に実りある成果があったかどうかについては、今後の参加学生の動向を見極める必要があり、現時点で判断するのは時期尚早であるが、少なくとも、学生が今後さらなる留学などにつなげてくれるという手ごたえを得られたのは間違いない。

学生の声①-農学部 学生

英語の学習を通して異文化間交流をすることができて、貴重な体験となった。これをきっかけとして、さらなる海外留学につなげていきたい。また、今回、参加学生のリーダーとして語学センターとのパイプ役を果たすことができたことも、自分にとっては貴重な経験となった。

学生の声②-工学部 学生

英語クラスの内容が、いままで自分が学んできたやり方とは違い、英語を使って積極的に話すことを求められることが多かった。最初は戸惑ったが、徐々に慣れてきて、授業を楽しむことができた。

Placement Test



集合写真

